

Spotlight

スポットライト

中学生軟式野球
クラブチーム

西胆振ユナイト ベースボールクラブ

12月上旬のある日、夕闇に沈んだ財田スポーツ交流館に活気あふれる声が響いていました。館内には練習に打ち込む中学生球児の姿。ユニフォームの胸元には「UNITE」のロゴが踊ります。西胆振ユナイトベースボールクラブ（神坂明監督）は、



勝利の喜び 味わいたい

profile
2021年4月に結成。21年度は6大会に出場。冬場は硬式と軟式を組み合わせたKボールの練習も行う。

発足から1年足らずの若いチームです。結成のきっかけは少子化や野球人口の減少。令和元年時点で洞爺湖、豊浦の2町で野球部が存続していた中学校は虻田中のみでした。このままでは中学に進学した球児が行き場を失くしてしまうとの危機感から、保護者を中心にクラブチーム新設に向けた動きが始まりました。

チームには12月1日現在で2町から13人が在籍。週4日ほどの練習に汗を流しています。指揮を執る神坂監督は、札幌商業高校（現・北海学園札幌高校）時代に4番サードの主将として甲子園出場を果しました。卒業後は社会人野球に進み、新日鉄室蘭野球部で活躍。退社後、チーム結成に奔走していた保護者から監督就任を依頼され、快諾しました。

神坂監督は「1年ほど活動して子どもたちは見違えるように上手くなりました」と成長ぶりを語ります。クラブチームは中体連に出場できない

ため、昨年は北海道チャンピオンシップ協会主催の大会などに出場。西胆振のほか函館のクラブチームなどと熱戦を繰り広げました。

野球人として歩んできた神坂監督は「勝つ喜びをどんどん味わわせたい」と話します。21年秋は、これまで苦杯をなめさせられた西胆振の中学校とも互角に渡り合えるようになり、練習の成果が表れました。「勝つことが選手の実成長につながります。新年はチャンピオンリーグで上位進出を目指します」と意気込みます。

山崎亘瑠主将（洞爺中2年）は「みんなをまとめるのは難しいです。まずは自分から声を出すようにしています」と懸命にナインをリード。その甲斐あってか「練習してても一体感が出てきました」と手応えを感じています。仲間と目指しているのは「西胆振では勝ていないので、まずは勝つこと」。指揮官と共に「勝利」の2文字を目標に据え、新年も全力で戦います。

東奔西走

明 けましておめでとうございます。今年の干支は「寅」です。「寅年」は芽を出したものが成長していく年と言われています。私自身も何か1つでも成長できるように日々精進していきたいです。（M.O）

野 球の取材が多かった1月号。白球を追う子どもたちを久しぶりに見てうれしくなりました。厳しい世相に関わらず、昨年の球界は明るい話題に恵まれました。新年は町に元気をもたらす球児たちの活躍にも期待です。（D.Y）

今月のワンショット



洞爺湖ビジターセンターで行われた「リースをつくろう」